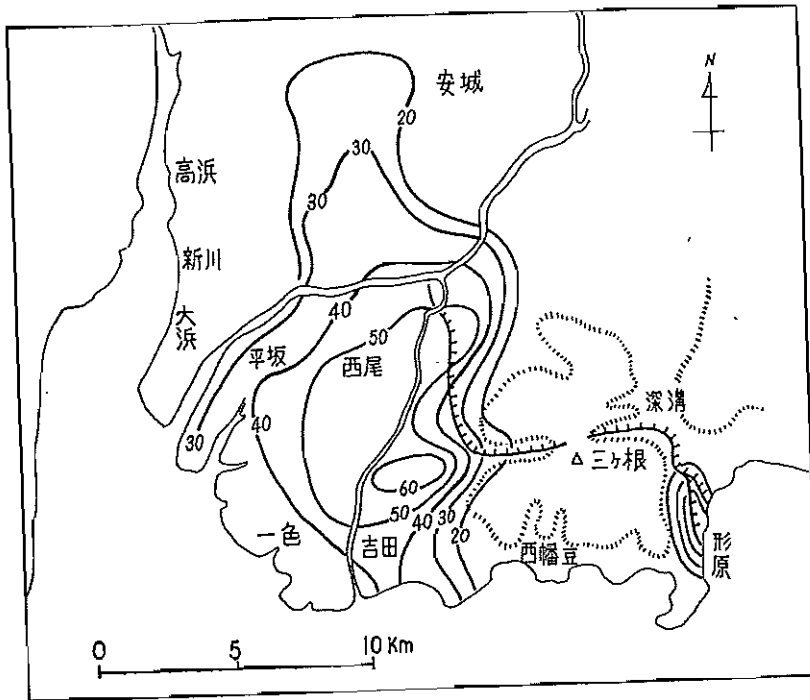


5 三河地震

昭和20年(1945)1月13日の午前3時38分12秒8に渥美湾北岸(北緯 34°7', 東経137°2')を震源地として発生した。地震の規模はM6.9で先の東南海地震(M8.3)に比較すれば低く, 被害も三河湾岸に限られた局地的地震であった。

三河地震は三河西南部の広地域に地盤沈下を生じさせ, 蒲郡市形原町方面では2mの断層を生じた。図5-16が示すように, 地盤沈下のはげしかったのは西尾市小栗町付近(1.453m), 西尾市高河原町付近(1.40m)で, 一色町は0.6mである。これと反対に, 西尾市八ツ面付近では0.5m隆起した。この地盤沈下と被害率とは関係が深く, 地盤沈下のはげしい所ほど被害率が高い。

図5-17 三河地震の被害分布と断層線



(一色町役場)

図5-17被害分布と断層線が示すように, 断層は三ヶ根山の北を通過して東西に走り, 東は幸田町深溝付近で急に南に曲がり, 蒲郡市形原町に通じている。

断層線に沿う部落で震災を受けたのは, 断層にまたがっていた家だけで, 断層から数メートルを隔てた家ではほとんど被害を受けていない。被害の大きかったのは旧幡豆都で, 特に横須賀村が最もひどく, 三和・福地・一色・吉田とおよんでいる。(図5-17断層線の図, 表5-36参照)

さきの東南海地震で倒れそうになった福地・一色の家で, この三河地震で完全に潰れたものもたくさんある。また, 人の被害が多かったのは, 午前3時38分という真夜中であったため, 家屋倒壊が急激で就寝中に圧死した者が多かった。

一色町の被害は表5-36のように, 住家の全壊592戸, 半壊1770戸, 死者80名, 重傷34名, 軽傷102名であった。住家の被害率は39.2%で, 旧幡豆都内では5番目に大きな被害であった。また前回の東南海地震と比較すると, はるかに大きな被害であった。

部落別の死亡者数は表5-37のとおりで, 特に被害の大きかったのは大塚・関正部落であった。

表5—36

三河地震被害調

(昭20.1.13)

町 村 名	世帯数	全 壊		半 壊		死 傷			被害率 (住宅のみ)
		住 家	非住家	住 家	非住家	死 亡	重 傷	軽 傷	
西尾町	4,422	760	1,070	1,880	2,070	175	85	265	38.4
平坂町	2,332	227	406	375	598	15	40	193	17.8
寺津町	1,128	220	240	329	310	57	23	300	34.1
一色町	3,770	592	461	1,770	589	80	34	102	39.2
福地村	1,226	501	852	264	403	229	80	216	51.6
三和村	952	543	524	459	597	196	70	189	81.2
豊坂村	586	17	21	15	5	7	6	30	4.3
室場村	406	77	27	170	17	18	25	25	39.9
横須賀村	1,921	760	617	667	713	261	110	420	56.9
吉田町	1,663	422	119	394	523	96	54	250	37.2
幡豆町	1,939	14	83	212	257	0	2	1	6.2
佐久島村	301	0	0	2	0	0	0	0	0.3
合 計	20,646	4,133	4,420	6,537	6,082	1,134	529	1,991	

(台風13号により幡豆地方災害誌)

表5—37

三河地震による部落別死亡者数

(昭20.11.13)

大 字 名	男	女	計	大 字 名	男	女	計
一色	3	6	9	味沢	6	1	7
赤羽	2	1	3	生田	0	2	2
開正	3	8	11	千間	1	0	1
治明北部	3	0	3	野田	2	2	4
治明南部	0	2	2	大塚	3	13	16
細川	1	1	2	対米	2	1	3
養ヶ島	1	1	2	池田	3	5	8
中外沢	1	4	5	合 計	31	49	80

(一色町役場)

6 南海地震

南海地震は昭和21年(1946)12月21日4時18分、潮岬の南方50km、深さ30kmの地点を震源地として発生した。規模はM8.1で、2年前の東南海地震と相呼応して起こったものである。その震域は北は東北地方南部から南は九州地方におよび、烈震地域は三重県から高知県に至る南海道全域におよび、震源地に近い都市などでは被害が大きかった。特に高知市では市街地が鏡川の沖積地にのびているうえに、終戦直後でバラック住宅が多かったため、家屋の倒壊も鏡川の沖積層の厚さに比例して分布している。当地方の被害はほとんどなく、墓石・燈籠・煙突等が倒れた程度であった。

7 13号台風

(1) 気象状況

昭和28年(1953)9月17日カロリン群島付近で発生した熱帯性低気圧は、次第に発達しながら西北に進み、18日午後には台風となった。